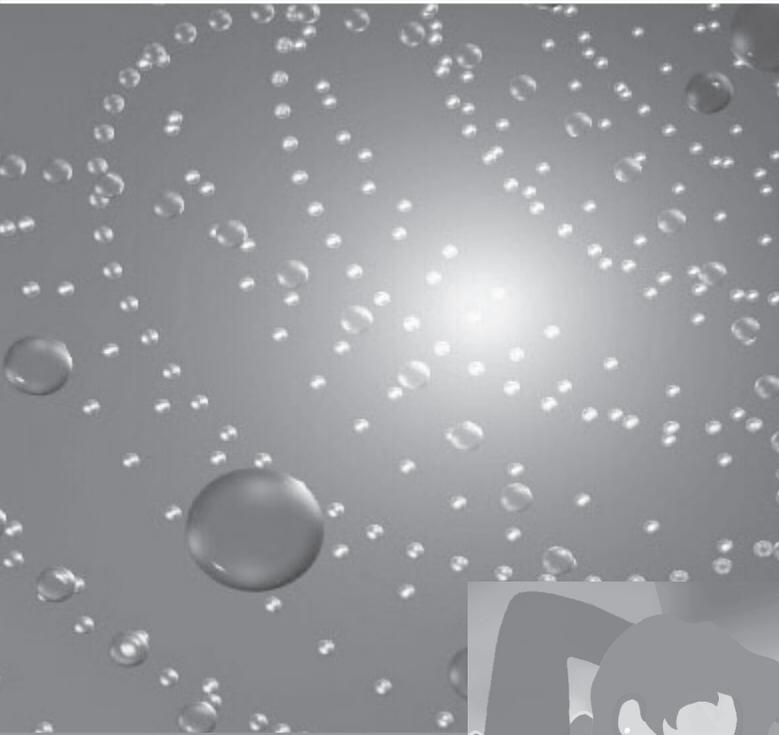


# Dry Suit Speciality



## オールシーズン快適ダイビング

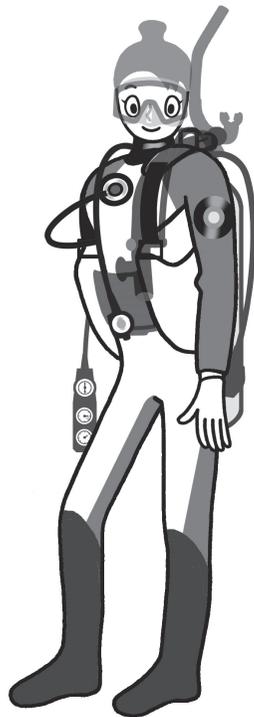
映画 007 ではジェームスボンドがドライスーツで登場しました。  
ドライスーツの下にはタキシードを着ていて、そのままさっそうとパーティーに  
あられるクールなシーンです。

ドライスーツはスーツの内部に水が入りませんので、海では寒さ知らずで快適で  
す。

簡単に脱ぐこともできますから、2 回目のダイビングまでの休憩中でも、快適に  
過ごすことができます。

もちろん、オールシーズン使用できるので、水温に関係なくダイビングをエンジョ  
イできるというわけです。

ドライスーツの使用方法をマスターして、快適ダイビングを始めましょう。



# 認定カード

この講習を修了すると、ドライスーツスペシャリティーカードを取得することができます。

この認定カードは、あなたがドライスーツに関する十分な知識や技術を持つことを証明することができます。

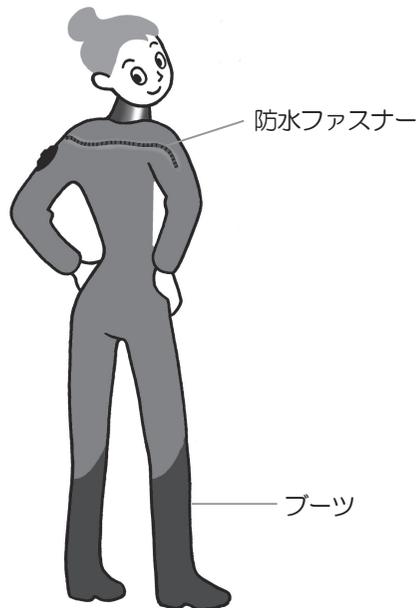
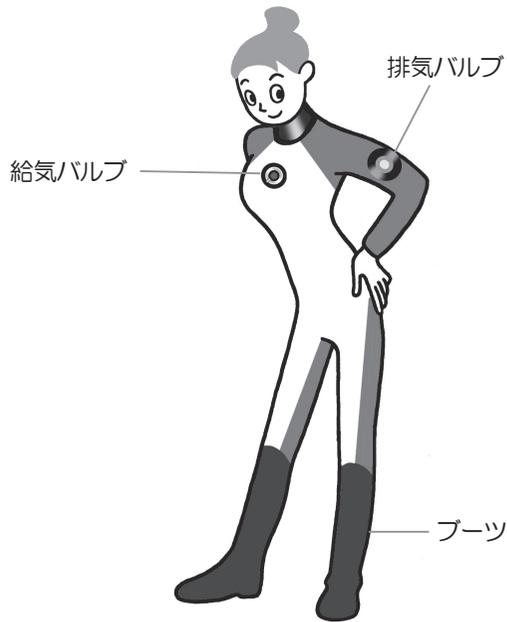
ダイビングにでかけるときには忘れずに持っていきましょう。



ドライスーツスペシャリティー  
認定カード

# ドライスーツの特徴

## ■ドライスーツ各部の名称

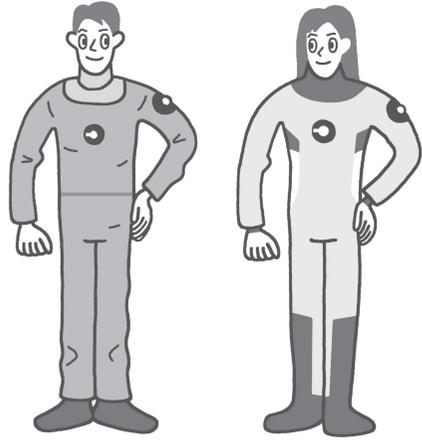


## ■素材

ドライスーツには、ネオプレンタイプとシェルタイプ（ファブリックタイプ）があります。

ネオプレンタイプは、ウエットスーツと同じネオプレンゴムでできています。

シェルタイプは、ナイロンをゴムでコーティングした素材でできています。



シェルタイプ

ネオプレンタイプ

## ■保温

ドライスーツを使用すると、スーツと肌との間に水が入らないので、肌とドライスーツの間の空気層がウエットスーツより高い保温効果を発揮します。

ネオプレンタイプは、素材そのものに保温効果があります。

シェルタイプは、素材そのものに保温効果がないため、インナースーツで保温効果を調節します。



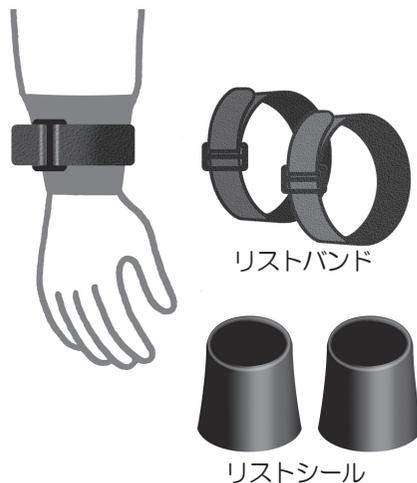
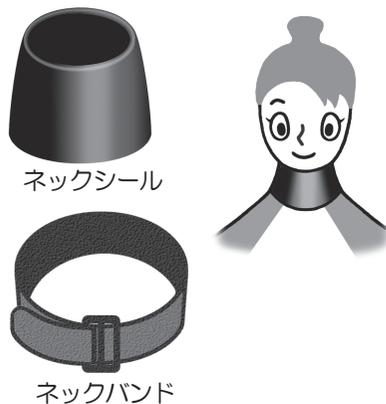
インナースーツ

## ■防水

ドライスーツは、手首や首から水が入らないように体にフィットしていますが、手首や首のわずかな動きや、髪の毛などの巻き込みにより、手首や首のまわりにわずかな水が浸入することもあります。

このようなときには、首や手首用のシールやバンドを使用して水の浸入を防ぎます。

シェルタイプの手首や首のシール部分にはラテックスゴムが使用されていて、オプレンタイプシール部分よりも防水性が高くなっています。



## ■携帯性

シェルタイプは、素材に厚みがないため、ネオプレンタイプよりも携帯性にすぐれています。

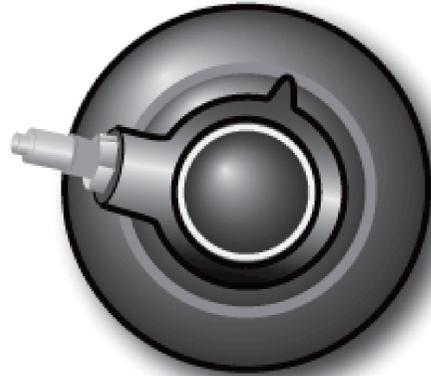


シェルタイプは持ち運びが簡単

## ■給排気バルブ

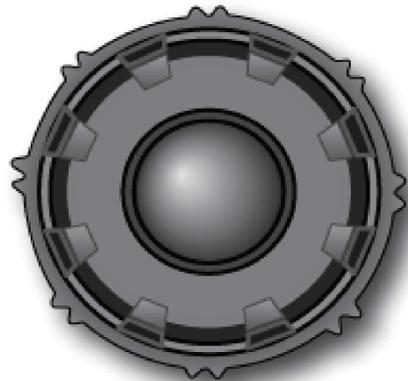
ドライスーツ内部の空気層を調整するために、排気バルブと給気バルブがついています。

給気バルブは、胸の中心部にあり、レギュレーターファーストステージと中圧ホースで接続します。給気バルブを操作して、水圧に適した空気をスーツ内に送ります。スーツスクイズを感じたら、こまめに給気バルブを操作しましょう。



給気バルブ

排気バルブは左手の肩付近にあります。排気バルブには事前に決めた空気圧力以上になると自動的に排気するタイプのももあります。スーツによっては足に排気バルブが付いているものもあります。



排気バルブ

## ■インナースーツ

水が浸入した時に不快感のある綿素材のものや、スクイーズを起こした時に体に跡がつくボタン類やアクセサリーがついているものは適しません。

また、生地が厚いインナースーツを着用してシェルタイプを使用すると、中性浮力に必要なウエイト量が多くなります。

シェルタイプを使用する場合には、素材が薄くて保温性があるダイビング専用のものが適しています。



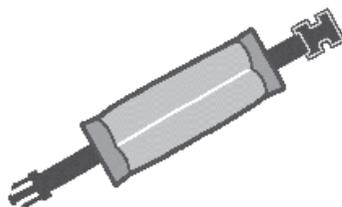
## ■ウエイトシステム

ウエットスーツより、装着するウエイトが多くなります。

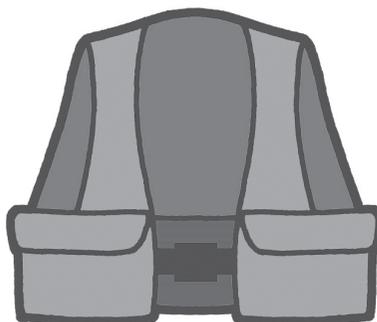
水中でのバランスをよくするために、アンクルウエイトやウエイトベストを装着することもあります。

足首に装着するウエイトをアンクルウエイトといいます。

上半身にウエイトを装着するには、ウエイトベストを使用します。



アンクルウエイト



ウエイトベスト

## ■メンテナンス

使用後は、ドライスーツを着たまま、真水で水洗いします。給排気バルブや防水ファスナーは、よく水洗いしましょう。

汗をかいた場合には、内側も水洗いしましょう。

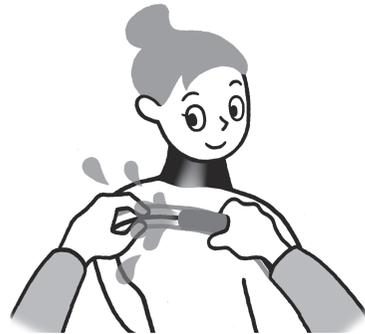
専用ハンガーを使って、日陰で干しましょう。

シェルタイプの手首や首の部分は、薄いテックスゴムでできています。使用後には、ゴムに傷がないかどうか確認しましょう。また、深い傷やゴムが劣化した場合は交換しましょう。

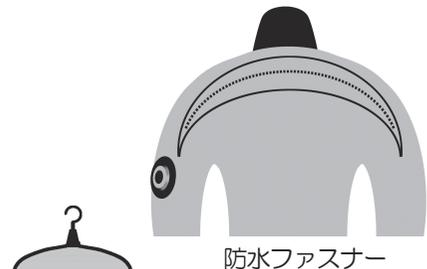
防水ファスナーを折り曲げると破損してしまいます。防水ファスナーを折り曲げないように保管しましょう。

また、砂やごみなどが防水ファスナーに付着しないように注意しましょう。

経年変化による素材の劣化や、防水ファスナーの故障により水の浸入がある場合には、スーツを修理しましょう。



ドライスーツを着たまま水洗いします。防水ファスナーが後ろにある場合には、バディーに協力してもらいましょう。



専用ハンガー付ドライスーツバッグ

# ドライスーツの使用法

## ■ドライスーツの装着

指輪・時計・ヘアピンなどを外し、ゴミや髪の毛などをシール部分に巻き込まないように注意して首や手首を通しましょう。

ラテックスゴムのシール部分に爪を立てたり無理に引っ張ったりせず、メーカーの推奨するパウダーなどを利用してスムーズに着用しましょう。

ファスナーが背中にある場合にはボディに協力してもらいましょう。

装着後にドライスーツ内の空気を抜く場合は、排気ボタンを押すか、またはネックシールを持ち上げてしゃがみ込み、体を小さくすると空気が抜けます。



## ■水面での中性浮力の確認

インナースーツとドライスーツを着て、排気ボタンを押しながら、ドライスーツ内の空気を抜きます。

ウェイトと器材をつけ、BCに空気を入れた状態で水面に浮かびます。

BCの空気を少しずつ排気します。  
BCに空気が残っているのに、目の位置に水面がくる場合には、ウェイトを減らします。

BCの空気を完全に排気したのに、目の位置に水面より上の場合には、ウェイトを増やします。

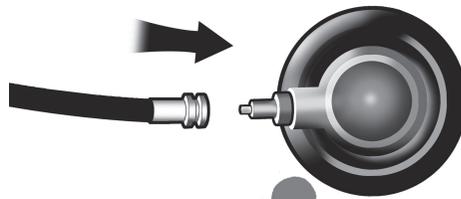
BCの空気を完全に排気した状態で、通常の呼吸をしている時に目の位置が水面になるようにウェイトを調整し、水面での中性浮力を確認します。



目の位置が水面になるようにウェイトを調整

## ■ダイビング準備

ドライスーツの給気バルブに、中圧ホースを接続します。



ホースは脇の下から通します

器材チェックの時には、ドライスーツの給排気バルブが正しく作動するか忘れずに確認しましょう。

エントリー前にドライスーツ内の空気を抜きます。



## ■水面移動

ドライスーツに空気を入れると、抵抗が増えて泳ぎにくいので、水面移動時の浮力確保はBCで行います。

## ■潜降

BCの空気を完全に排気して、大きく息を吐き出します。

潜降は、すべてフィートファーストで行います。

ドライスーツ内部の脚部に空気がたまるため、ヘッドファーストでは潜降できません。

潜降中にスクイズを感じたら、ドライスーツに給気してスクイズを解消し、水中で常に中性浮力を保ちます。



スクイズを感じたら給気します

## ■浮上

排気バルブから空気を排気しながら浮上します。

排気するときには排気バルブがいちばん浅い位置になるように、垂直な姿勢で左肩を上げて排気します。



左肩を上げて排気

## ■浮力コントロール

水中での浮力コントロールに BC を用いることはありません。BC は水面での浮力確保のみに使用します。

水中ではドライスーツへの給排気により浮力の調整を行いましょう。

給排気は BC と同様に少量ずつ行いましょう。

自動排気バルブは設定圧力になると自動的に排気します。

ダイビング深度に応じてバルブ外側のリングを回すことにより、ドライスーツ内の空気量を一定にして中性浮力を保つことができます。

水中で逆立ち姿勢になると脚部に空気がたまり、浮力をコントロールできなくなりますので注意しましょう。



中性浮力はドライスーツでとりましよう

## ■緊急時の対応

### ●水の浸入への対応

バルブの故障などでスーツに多量の水が入ってきた場合には、ドライスーツで中性浮力をとることができません。

BCで中性浮力をとり、ダイビングを中止しましょう。

### ●過剰空気への対応

水中で逆立ちの姿勢になり浮力のコントロールができなくなった場合には、すばやく体を小さく丸めるようにして垂直の姿勢になります。



コントロールができなくなった場合



すばやく体を小さく丸め



垂直の姿勢になります

■発行            スターズ本部  
                      東京都文京区本郷2丁目26番14号  
                      電話 03-3818-6028

■初版発行        2010年6月

※本紙掲載記事、写真、イラストの無断転載をお断りいたします。